

中学生の学習意欲を高める大人の言葉・態度に関する調査研究： 親や教師の働きかけによる学習意欲の向上

塩 崎 一 希

要 旨

本研究では、中学生の学習意欲を高める親や教師の具体的な支援や働きかけのあり方を検討することを目的とした。大学生76名を協力者としたアンケート調査の結果、中学生の学習意欲を高める言葉、学習意欲を下げる言葉、学習意欲を高める親や教師の態度・姿勢、学習意欲を高める中学校のあり方が具体的に示された。それらに基づき、親や教師による望ましい働きかけのあり方について論じた。

キーワード：中学生、学習意欲、親・教師の言葉

1. 問題と目的

近年、教育現場では、不登校の児童生徒が年々増加している。文部科学省（2023）によれば、不登校児童生徒数は11年連続で増加し、令和5年度は過去最多となっている。不登校の理由として、無気力・不安、生活リズムの乱れ・遊び・非行などが挙げられる。これらの要因として、学校教育が魅力的なものではないものになっていることが考えられる。実際に文部科学省（2019）が行った全国学力・学習状況調査では、小学校で国語・算数の勉強が好きな児童が中学校に上がると減っていることが示されており、生徒の興味・関心が下がっていることがわかる。興味・関心が下がっているということは、学習意欲も下がると考えられる。中学生は、小学校までとは授業形態が変化し、教科ごとに教える先生が変わる。さらに学習の難易度が上がることは、学習意欲の低下をさらに促進するだろう。子供たちが学校で意欲的に学ぶには、教師や学校によるどのような働きかけが必要なのだろうか。

過去の研究では、坂本ら（2023）は、中学生の学習意欲を促進させるガイダンス授業と個別支援の実践について報告し、期末テスト前にガイダンス授業を行うことで、学習意欲の向上について具体的な意識づけができたことを示した。さらに同研究では、ガイダンス授業に加えて個別指導を行うことで、学習内容の理解が深まり、生徒の学習意欲の向上に繋がったとしている。また、小栗（2023）は、教科書のデザインや構成、レイアウトが学習者にどのような影響を与えているのかについて、現在大学生の47名を対象に中学時代の教科書について調査した結果、「教科書内部の写真やイラスト」及びメモなどが書きやすい「素材」や「余白」が多いことが生徒の学習意欲を高める可能性を示した。その他、高橋ら（2014）は、子どもに予習を推奨した授業実践を行った際の子どもの授業への学習意欲や目的意識との相関について、中学校2年生60人を対象に調査した結果、理科の授業において従来の復習中心の授業展開ではなく、予習を取り入れた授業展開を行うことが、多くの子どもが意欲的に学習に取り組むために有

効である可能性を示した。

このように、ガイダンスの実施や授業の工夫など、生徒の学習意欲を高めるための取り組みは、様々に行われ、それなりの成果が報告されている。しかし、生徒の学習意欲を高めるには、「教材」や「授業」自体ではなく、親や教師がそれらをどのように活用するかが重要であろう。同じ教材、同じ内容の授業であっても、それらを使用・活用する大人の側の言動や態度によって、生徒の学習意欲は大きく左右されると考えられる。そこで本研究では、大学生を協力者としてアンケート調査を実施し、中学生の学習意欲を促すための親や教師の具体的な支援や働きかけのあり方を検討することを目的とする。

「学習意欲」は一般に学習に対する意欲、やる気を指すが、本研究では、そのうち、「中学校の勉強に対するやる気」のみに着目する。

2. 先行研究

2.1 幼児を対象とした研究

高崎（2003）は、幼児の達成動機づけに関する個人特性の測定のため、二者択一の強制選択方式による目標志向性の測度開発を行った。強制選択方式で測定した目標志向性と他の達成反応との関連を検証することで、測度の妥当性を検討した。この結果、「ほめられる」といったよい結果を得ることに興味を示す「パフォーマンス・ゴール志向」の者は挑戦性が低く、「できるようになる」といった能力を伸ばすことに興味のある「ラーニング・ゴール志向」の者は挑戦性が高い結果となった。ラーニング・ゴールを追求する幼児は自分の能力を伸ばすことに関心があり、達成場面になると能力を伸ばすチャンスだと考え、挑戦を好んだ。つまり、「ほめられる」だけではなく、「できるようになる」ことを目指す志向性を伸ばすことが、幼児の挑戦性を高める上で重要だと言えよ

う。しかし、具体的にどうすれば幼児の挑戦性が高まるのかについては、明らかではない。幼児を対象とした研究はこのほかには見当たらず、西松（2023）は、この理由として幼児では動機づけに関する個人特性の測定が難しいことを指摘している。

2.2 小学生を対象とした研究

大谷ら（2016）は、小学5、6年生を対象に学級で強調される社会的な目標である「学級の社会的目標構造」と児童の学習における動機づけとの関連を検討した。向社会的目標構造（思いやりや互惠性を学級で強調される目標構造）及び規範遵守目標構造（秩序の維持を学級で強調される目標構造）と、学習動機づけとの関連について検討した結果、学級レベルと児童レベルの両方で向社会的目標構造は相互学習を通じ内発的動機づけおよび、自己効力感と関連することが示された。つまり、「思いやり」などを大切にする学級ほど児童の学業面での関わりが多く、学習が楽しくなり、自信が持てるようになった。

中川ら（2002）は、小学校5年生を対象にし、「モニタリング自己評価訓練法」と「到達度自己評価訓練法」の2つを比較し、国語の単元学習を促進する要因を検討した。「モニタリング自己評価訓練法」は問題解決の方略、スキルの利用の意義づけを教授の中に含め、その方略の実行過程でのモニタリング、評価やエラー修正等の自己統制の訓練をし、さらに自己の解決方法を他者に説明する訓練をした後、到達度と実行過程を自己評価する方法で、一方、「到達度自己評価訓練法」は今日のめあてを提示し、次に到達度自己評価カードを配布し、自己評価の仕方を説明された後、自己評価する方法である。その結果、「モニタリング自己評価訓練法」はポストテストのいずれにおいても、「到達度自己評価訓練法」に比べて学習遂行が優れており、また内発的動機づけも「到達

度自己評価訓練法」に比べて高い結果となったことを報告した。このことは、具体的な教師の働きかけとして、子ども自身に何がわかっていないか確かめながら勉強させることや重要なところはどこかを考えて勉強させることが有効であることを示している。

三和ら（2021）は、小学校の教師の動機づけと子どもの動機づけの関連を検討することと発言の機会を与えるなどの自律性支援の効果について検討した。教師とそのクラスに在籍する子どもを対象に質問紙調査を実施し、教師の動機づけと子どもの動機づけの関連および自律性支援の媒介の効果を検討した。その結果、教師の子ども志向が子どもの認知する自律性支援を介して子どもの「内的調整」（活動自体が目的となる動機づけスタイル）と正の関連を示した。また、熟達志向は直接的に子どもの「取り入的調整」と負の関連を示していた。研究は教師の子ども志向が自律性支援や子どもの動機づけと関連しており、子どものためといった教師の他者志向的な動機づけのポジティブな側面が明らかとなった。また、子どもに学習がどのように役立つかを考えさせる介入が重要であることを指摘している。

以上のように、小学生を対象とした動機づけ研究では、学級経営で思いやりを強調すること、学習過程をモニタリングされること、学習がどのように役立つかを考えさせる介入などが、子どもの学習意欲を高めることが示されてきた。

2.3 中学生を対象とした研究

鈴木（2011）は、テストをフィードバックする際にループリックを提示し、評価基準と評価目的を学習者に教示することの効果について、中学2年生を対象とした数学の実験授業によって実証的に検討した。また、返却された答案とループリックだけで、自身の答案内容とループリックの記述内容との対応関係が理解できるのかを検討するた

めに、「ループリックを提示し具体的な添削をする群」と、「ループリックを提示するだけで具体的な添削はしない群」を設けた。さらに、ループリックがなくても具体的な添削があれば、ループリックの提示と同等の効果が得られる可能性を考慮し、「ループリックを提示せずに添削だけを施す群」を設定した。その結果、ループリックを提示された2群は提示されなかった群に比べて、数学に対して好奇心を感じ、より難しい文章題に挑戦したいという意欲が高かった。加えて、内発的動機づけが高く、理解を指向して授業を受ける傾向にあり、テストでも高い成績をおさめた。しかし、楽しさと自律性については有意な差がみられなかった。また、非添削と添削ありは、いずれも有意な結果が見いだされず、添削の効果は得られなかった。つまり、教師側がループリックを提示することが子どもの内発的動機づけを高めることに繋がると考えられる。

中井（2015）は、教師との関係の形成・維持に対する動機づけと担任教師に対する信頼感との関連を検討するため、中学生を対象に調査を実施した。教師との関係に対する動機づけで調査対象者を類型化した結果、統制的動機づけの高い類型の生徒、すべての動機づけが低い類型の生徒の担任教師に対する信頼感が低く、価値を見いだしている生徒ほど信頼感が高かった。この研究から、教師への信頼感が高まれば、生徒の学習意欲が高まる可能性が示唆された。

鈴木ら（2015）は、中学生の学習動機づけの変化を規定する要因として、「テストの実施目的・役割に対する学習者の認識」であるテスト観に着目して研究を行っている。中学生を対象に、定期テストが実施される度に調査を行い、テスト観が学習動機づけに与える影響について検討を行った。分析の結果、テストの学習改善としての役割を強く認識することによって、内的調整（興味や楽しさ）や同一化的調整（自分のものとして受け

入れる)といった自律的な学習動機づけが高まることが示された。その一方で、学習を強制するためにテストが実施されていると認識することによって、内的調整が低下し、統制的な学習動機づけとされる取り入りの調整と外的調整は高まること示された。つまり、事前に何のためにテストを行うのか生徒に考えさせ、学習改善としての役割を強く認識させることができれば、自律的な学習動機づけが高まるといえる。

市原ら(2006)は中学生を対象に、数学の学習場面での「動機づけ信念-学習方略-学習成果」の動機づけモデルを構成して、メタ認知(自分の思考や行動を客観的に把握し認識する)活動がそれらの関係性を変化させるという調整効果を持っているのではないかと予想し、検討した。動機づけ信念の尺度には成功期待(将来直面するであろう課題に対してどのくらい自分がうまく対処できるかということに関する信念)と課題価値(課題に対して成功することの魅力)を、学習方略の尺度には暗記・反復方略と意味理解志向的方略を、学習成果の尺度には1学期の期末テスト得点を使用した。メタ認知尺度得点にもとづいて調査対象者をメタ認知低群・中群・高群の3群に分けて測定方程式モデリング・多母集団同時分析を行った。メタ認知低群と高群を比べると、動機づけ信念と意味理解志向的方略の関係、学習方略と学習成果の関係において違いが見られた。またメタ認知中群では他の群に比べて、動機づけ信念、学習方略および学習成果の関係が弱かった。学習者の自律的な学習を育むためには、次第に援助を控え、学習者自身のメタ認知活動を促していくことが求められる。

以上のことから、テストのループブックスを用意すること、中学生のテスト観に介入すること(事前に何のためにテストを行うのか生徒に考えさせ、学習改善としての役割を強く認識させる)、学習者自身のメタ認知活動を促すこと(学習の見

通しを立てさせる、振り返りを行わせる)、によって、自律的な学習動機づけを維持・向上させることが可能であることが示された。また、教師が信頼されることで生徒の学習意欲を高める可能性が示唆された。

2.4 保護者の子どもに対する働きかけ

ベネッセ教育総合研究所(2014)は、小学校4年生から6年生とその保護者3,450組、中学校1年生および2年生とその保護者1,959組を対象に4種類の学習への動機づけについて調査した。その中で伊藤(2015)は、保護者の子どもに対する関わり方を、「学習理解を促す支援」と「自律的動機づけ支援」、「外的な統制」の3つに分けた上で、関わり方と、子どもの動機づけの関係を分析した。「学習理解を促す支援」とは、「子どもが学習内容を正しく確実に理解できるよう、積極的に支援していくかかわり方」であり、「自律的動機づけ支援」とは、「学習内容の意義を伝えたり、価値づけを促したりして、子どもの動機づけ、とりわけ、同一化的動機づけを高めていこうとする支援」、また「外的な統制」とは、「報酬や罰によって学習への動機づけを高めようとするかかわり方」である。その結果、小学生と中学生のいずれにおいても、「外的な統制」を多く行っている保護者のもとでは、子どもたちは、親や先生に叱られたくない、よい成績をとってごほうびをもらいたい、親や先生にほめられたい、といった理由で動機づけられる傾向にあることが示された。また、小中学生ともに「内発的動機づけ支援」や「同一化的動機づけ支援」をしている保護者の子どもは、それらをしていない保護者の子どもと比べて、「内発的動機づけ」「同一化的動機づけ」によって学習する傾向がみられた。この結果から、保護者のかかわり方が、子どもの学習意欲に影響していることがうかがえる。

以上の研究成果をふまえると、中学生のテスト

のループリックを用意すること、テスト観に介入すること、学習者自身のメタ認知活動を促すことなどの働きかけを行うと中学生の学習意欲を高めることが予想される。また、叱る言葉かけや褒める言葉かけは外的動機づけを高め、勉強のメリットを伝えるなどの言葉かけは同一化的動機づけを高めることから、これらの言葉かけを行うことで中学生の学習意欲が高まることも予想できる。さらに、教師への信頼感と生徒の学習意欲が関係していることから、本研究では、教師への信頼感が学習意欲を高める可能性も視野にいて調査を行う。

3. 研究方法

3.1 協力者

指導教員の許可を得て、指導教員のゼミ生に協力を求めた。また、筆者個人の知人・友人の現役大学生及び、それら知人・友人を介した知り合い現役大学生にも協力を依頼した。最終的な協力者は、大学生76名（男性48名、女性27名、無回答1名）であった。協力者には、研究目的や方法、個人情報保護等について説明した。

3.2 質問紙の内容

中学3年間の協力者の学習意欲に関する心情や行動から、学習意欲を促すために有効な親や教師の具体的な働きかけを見出すため、質問紙を以下の項目で構成した。

1) 協力者の中学校での経験：まず、協力者が学校好きだったか、勉強が好きだったかについて、「はい」と「いいえ」の選択肢から一方を選択するよう求めた。次に、当時の学習意欲について「学校の課題以外のことも進んで勉強する」、「学校の課題はするがそれ以上の勉強はしない」、「学校の課題もやらないことがある」の3つの選択肢から、最も近いものを1つ選択するよう求めた。

さらに、中学時代に良い先生に出会ったかを二件法で、その科目が好きであったかについて、「はい」、「いいえ」「教科担当ではない」の選択肢から回答するよう求めた。

2) 学習意欲を高める・下げる言葉：中学時代、親や先生に言われた言葉の中で、言われたことによって学習意欲が高まった・下がった言葉をできるだけ多く自由記述するよう求めた。

3) やる気を高める親・教師の態度・姿勢：親や教師がどんな態度や姿勢であれば学習意欲を高めるとするか、例を2つ提示し、具体的に書くよう記載し、自由記述で回答を求めた。

4) 学習意欲を高める中学校のあり方：中学校がどんな場所であれば学習意欲を高めるとするか、できるだけ多くの内容を抽象的な表現を避けるよう注意し、自由記述で回答を求めた。

3.3 手続き

2023年11月24日から12月1日までの8日間を調査期間とし、Microsoft Formsを使用して回答を収集した。

3.4 自由記述の分析方法

1) 自由記述の内容については、回答者を発言の意味のまとまりごとに切り出し、その意味を表す短文を作成して概念ラベルとした。

2) 指導教員の協力を得ながら、概念ラベルの共通点と差異を検討し、類似点のあるラベルを集めて、小カテゴリを作成・命名した。さらに、それらの関係を検討して、中カテゴリを作成・命名した。また、小カテゴリをそのまま中カテゴリとした場合もあった。

学習意欲を高める親・教師の態度・姿勢や、学習意欲を高める中学校のあり方に関する回答内容の中に、学習意欲を高める・下げる言葉が書かれている場合もあるなど、回答の中には、必ずしも問いに対応しない内容もあった。その場合は、該

当する質問への回答とみなしてカテゴリ化を行った。

4. 結果

4.1 回答者の概要

回答者の概要は、次のとおりである。中学校が好きだったと回答した者は62名（82%）と大多数を占めたのに対し、勉強が好きだったと回答した者は24名（32%）であり、7割近くが勉強は好きではなかったと回答していた。回答者の中学時代の学習意欲については、学校の課題以外のことも進んで勉強すると回答した者は14名（18%）、学校の課題はするがそれ以上の勉強はしないと回答した者は56名（74%）、学校の課題もやらないことがあると回答した者は6名（8%）であり、4人に3人は学校の課題以上の勉強はしていなかった。

4.2 教師との信頼関係と学習意欲

中学時代に良い先生・好きな先生に出会ったと回答した者は65名（86%）であった。そのうち、その先生の教科が好きであると回答した者は47人（72%）、好きではないと回答した者は9名（14%）、教科担当ではないと回答した者も9名（14%）であった。教科担当ではないと回答した9名を除くと、56名のうち47名（84%）がその先生の授業が好きであった。

4.3 学習意欲を高める言葉と下げる言葉

中学時代、親や教師から言われた言葉で学習意欲が高まった言葉と学習意欲が下がった言葉についての自由記述をカテゴリ化した結果、学習意欲が高まった言葉は25のサブカテゴリ、10のメインカテゴリが得られ、学習意欲が下がった言葉は17のサブカテゴリ、9のメインカテゴリが得られた。学習意欲が高まった言葉に関するカテゴリの

一覧を表1に、学習意欲が下がった言葉に関するカテゴリの一覧を表2示した。以下の文中の（ ）内は該当するカテゴリ番号である。例えば（メ1）は自身の自己肯定感が高い理由のメインカテゴリの1番を指す。

4.3.1 学習意欲が高まった言葉

学習意欲が高まった言葉は、「報酬を約束する言葉」（メ1）、「期待を伝える」（メ2）、「メリットを伝える言葉」（メ3）、「鼓舞する言葉」（メ4）、「プレッシャーをかける言葉」（メ5）、「応援の言葉」（メ6）、「支援を申し出る言葉」（メ7）、「褒める言葉」（メ8）、「労いの言葉」（メ9）、「その他」（メ10）に関する項目から生成された。「ご褒美をあげる」（サ1）、「期待していることを伝える」（サ3）、「頑張りを褒める」（サ20）などが含まれている。

4.3.2 学習意欲が下がった言葉

学習意欲が下がった言葉は、「勉強を強いる言葉」（メ1）、「期待を伝える」（メ2）、「期待をしていないことを伝える言葉」（メ3）、「人と比較する言葉」（メ4）、「自分にはできないと思わせる言葉」（メ5）、「勉強の価値を否定する言葉」（メ6）、「プレッシャーをかける言葉」（メ7）、「できた喜びを挫く言葉」（メ8）、「結果のみへの関心を示す言葉」（メ9）に関する項目から生成された。「勉強をやるよう声をかける」（サ1）、「頑張りを褒めない」（サ16）、「結果にだけ目を向ける」（サ17）などが含まれている。

4.4 学習意欲を高める親や教師の態度・姿勢

学習意欲を高める親や教師の態度や姿勢についての自由記述をカテゴリ化した結果、43のサブカテゴリ、16のメインカテゴリが得られた。学習意欲を高める親や教師の態度や姿勢に関するカテゴリの一覧を表3に示した。以下の文中の（ ）内

表1 学習意欲を高める言葉

メインカテゴリ	サブカテゴリ	回答例
1 報酬を約束する言葉	1 ご褒美をあげる(6)	〇〇点取れたらご褒美あげる お小遣いあげる
	2 罰を与える(2)	テストで悪い点を取ったら部活動でのペナルティがあるからね 赤点が無ければ部活を制限なくできる
2 期待を伝える	3 期待していることを伝える(8)	期待してます やれば出来る
3 メリットを伝える言葉	4 カッコいいからやるようにと促す(4)	一生懸命はカッコいい 常識のある奴が結局モテる
	5 頑張りは報われると説く(4)	努力は必ず報われる あなたの学力ならこの学校行けるから頑張って 頑張れば志望校受かるよ やったらやった分だけ結果が出るよ
	6 実用性について説く(3)	勉強は社会に出るための準備 知識は人生のレールの本数を増やせる
4 鼓舞する言葉	7 奮い立たせる(5)	あまったれてるんじゃないよ お前がやらなきゃ誰がやるんだ？ 自分のためだよ
	8 時間を無駄にしていることに気づかせる(2)	その時間がもったいない 今サボってる1分も10回積み重なれば10分も勉強できる時間を 無駄にしてんだぞ！
	9 今できる限りのことをやらせる(2)	“今”を全力で 100点取れなくても良いからできるだけ頑張れな！
	10 文武両立するよう促す(2)	部活動も大切だけど、まずは学生であることを忘れない 文武両道しなさい
	11 とりあえずやらせる(1)	やってみよ！
	12 ライバルを意識させて応援する(1)	ライバルに負けるな
5 プレッシャーをかける言葉	13 プレッシャーをかける(3)	いいとこいけないよ その成績じゃ働くところないよ
	14 プレッシャーをかけてやらせる(2)	このままだと高校行けなくなるからちゃんとやりなさい このままだと合格できないから毎日自学ノートを提出しなさい
6 応援の言葉	15 応援する(5)	がんばれ がんばれー！
	16 継続するよう応援する(2)	この調子で頑張ろう その調子で頑張れ
	17 期待して応援する(2)	やれば出来るんだから頑張れな 〇〇くんなら出来るから頑張れ！
7 支援を申し出る言葉	18 サポートする(1)	できるまで何度でも聞きに来てね
	19 一緒にやる(2)	一つ一つ解決していこうか 次はどうなると思う？→どうしてそう思った？
8 褒める言葉	20 頑張りを褒める(18)	よくやった よくおぼえたね！
	21 成績を褒める(8)	今回も良かったね、その調子で次も！ いい感じ
	22 具体的に頑張った内容に褒める(2)	ここ理解できてのすごい！ テストの解答欄の空白の数が少なくなったね
	23 その人の頑張りを褒める(2)	やっぱり〇〇さんは優秀だね 〇〇さんならできると思ってた
9 労いの言葉	24 労いの言葉をかける(2)	お疲れ様 あと一歩だったね
10 その他	25 その他(1)	授業中学生が寝るのは先生のせい

は該当するカテゴリ番号である。学習意欲を高める親や教師の態度や姿勢は、「見守る」(メ1), 「環境整備する」(メ2), 「サポートや労いを行う」(メ3), 「報酬を用意する」(メ4), 「メリハリのある指導をする」(メ5), 「授業を工夫する」(メ6), 「協力する」(メ7), 「見通しを持たせる」(メ8), 「勉強することの価値を伝える」(メ9), 「大人の側も学んでいる」(メ10), 「褒める」(メ11), 「前向きな関与をする」(メ12), 「興味

を持つ」(メ13), 「子どもの味方でいる」(メ14), 「対等に接する」(メ15), 「生徒と良好な関係を築く」(メ16)に関する項目から生成された。「あまり干渉しない」(サ1), 「勉強しやすい環境を用意する」(サ6), 「進路についてイメージさせる」(サ20)などが含まれている。

表2 学習意欲を下げる言葉

メインカテゴリ	サブカテゴリ	回答例
1 勉強を強いる言葉	1 勉強をやるよう声をかける(19)	勉強しなさい やりなさい
	2 勉強を催促をする(4)	早くやりなさい 勉強をしようとしているときに「勉強しなさい」と言われる
	3 いつやるか聞いてくる(2)	いつやるん いつやるの？ ちゃんと勉強してる？
	4 勉強しているか確認する(7)	宿題はもう終わった？ もっと勉強しなさい
	5 さらなる勉強を求める(1)	
	6 テストのために勉強をやらせる(3)	とりあえずテストまで覚える テスト低かったんだから勉強しなさい
2 期待を伝える言葉	7 期待していることを伝える(3)	あなたなら出来る 期待してるから満点とってきてね
3 期待していないことを伝える言葉	8 期待をしない(1)	親から「どうせできないよ」
	9 見放す(1)	あなたの人生だから好きにしな
4 人と比較する言葉	10 人と比べる(2)	Aくん(幼なじみ)は頑張ってるのにお前は頑張ってる 周りはみんなやってるよ
5 自分にはできないと思わせる言葉	11 馬鹿にする(5)	そんなこともわからないの？ 何でわからないの？
	12 呆れる(3)	またか まだやってないの
	13 辱めを受けさせる(1)	みんなの前で「少しこ苦手だよ」と言われた
6 勉強の価値を否定する言葉	14 勉強の可能性を否定する(2)	そんなに勉強しても意味ないぞ 数学は常識的に必要なだけで将来使う人は限られる
7 プレッシャーをかける言葉	15 プレッシャーをかける(3)	卒業できないぞ そのままだとろくな高校に行けない
8 できた喜びを挫く言葉	16 頑張りを褒めない(3)	できて当たり前 君は天才じゃないよ
9 結果のみへの関心を示す言葉	17 結果にだけ目を向ける(5)	テストの順位は何位だったの 結果の出ない努力は努力ではない

4.5 学習意欲を高める中学校のあり方

学習意欲を高める中学校のあり方についての自由記述をカテゴリ化した結果、27のサブカテゴリ、7のメインカテゴリが得られた。カテゴリの一覧を表4に示した。以下の文中の（ ）内は該当するカテゴリ番号である。

学習意欲を高める中学校のあり方は、「学ぶことが楽しい」(メ1),「個に応じた指導が受けられる」(メ2),「学習環境が充実している」(メ3),「自由で安全」(メ4),「サポートを受けやすい」(メ5),「切磋琢磨できる」(メ6),「その他」(メ7)に関する項目から生成された。「楽し

く学べる」(サ1),「わからない子を取り残さない」(サ8),「お互いに高め合う」(サ22)などが含まれている。

表3 学習意欲を高める親や教師の態度・姿勢

メインカテゴリ	サブカテゴリ	回答例
1 見守る	1 あまり干渉しない(6)	学習に踏み込みすぎない あまり干渉しない
	2 全く干渉しない(9)	何も言わない 子供が好きに選択し、自由にやらせてあげる
	3 見守る(4)	見守ってくれる ただ見守ってくれていた時
	4 過度な期待をしない(1)	親から過度な期待を持たれない方がいいと思う
2 環境整備する	5 勉強道具を用意する(3)	いいシャーペンを提供 綺麗な机を提供
	6 勉強しやすい環境を用意する(9)	静かに勉強できる居場所を提供 やりやすい環境作り
	7 サポートや労いを行う	お茶をいっばいくれるなどの労い 献身的にサポートしてくれる
4 報酬を用意する	8 ご褒美を用意する(1)	ご褒美くれる
5 メリハリのある指導をする	9 愛のある指導を行う(1)	教育委員会などにせず愛のある説教をしてくれる！
	10 メリハリをつけて接する(1)	優しい時と厳しい時の差がある！
	11 メリハリを付けさせる(1)	メリハリをつける習慣をつけさせる
6 授業を工夫する	12 授業にアクティビティを取り入れる(1)	座って授業するだけでなくグループ活動だったり、少し動いたりする授業
	13 雑談や流行りを交えて授業する(6)	背景や面白さなど興味を引くような内容を示される ちょっと雑学混じりな授業
	14 友達を競わせる(1)	友達と競い合わせる
	15 目標を立てさせる(3)	学習に限らず何か目標を持てるように挑戦させてくれる態度 目標を決めさせる
7 協力する	16 勉強方法の提案をする(1)	自分に合った勉強方法を提案してくれる
	17 勉強に付き合う(3)	ただわからないと一蹴するのではなく、一緒に問題を解く時に悩んでくれる 一緒になって考える
	18 個別に教える(4)	バカにせず教えてくれる姿勢 わからないところを丁寧にわかるまで個人的にでも教えてくれる
	19 全国水準を教える(2)	地方は頭が良いと言う基準が低いので首都圏の高い意識が普通だと教える 中学のうちからもっと全国的な成績の差を教えるべきだと感じる
8 見通しを持たせる	20 進路についてイメージさせる(5)	この高校・大学のこの学科に入って、なんの勉強をすればいいんじゃないとか 具体的に高校でどんな選択肢があるかを教えてもらったこと
	9 勉強することの価値を伝える	21 実用性を説く(6)
10 大人の側も学んでいる	22 子どものお手本になる(1)	それを覚えることによって何の役に立つのかをしっかりと話す やらなければならない理由を伝えてくれれば
	23 親も勉強する(2)	子供が勉強しているとき親や教師がだらけた姿を極力みせない 自分自身が勉強している 親も一緒に勉強する
11 褒める	24 ただ褒める(2)	褒めてくれる 褒める
	25 頑張りを褒める(1)	頑張ったことに対して褒める
	26 勉強していることを褒める(3)	勉強している様子をみて褒めてくれたりした 勉強に向かっていくことを褒める
	27 選択を褒める(1)	自分の選択の結果を褒められること
	28 些細なことを褒める(2)	少しのことで褒めてくれる 常に褒めることを忘れない
	29 良いところを褒める(2)	良いところを指摘してくれると、自然とその人のやる気は上がると思う その人のいいところを見つけ、褒める
	30 できたことを褒める(4)	できたことに対してきちんと褒める 出来たことに対して褒めてくれた
	31 成果が出たときに褒める(2)	一定の距離を置き、成果が出た時に褒めてあげる 良い点をとった時は褒めてくれる
12 前向きな関与をする	32 前向きな声掛けをする(1)	前向きな言葉かけてくれたら
13 興味を持つ	33 その子の勉強に興味を持つ(3)	興味をもってあげる。しかし、しつこすぎるのはよくない 自身の勉強に対して興味を持ってくれる。(今回の目標は何点なの？)
	34 勉強進捗を確認する(1)	勉強をしたか確認する
	35 強制するのではなく自主的な勉強を促す(3)	勉強を強要するのではなくあくまで自発的に勉強したいと思わせる 寄り添いながら促す
14 子どもの味方である	36 当人の気持ちに寄り添う(4)	顔色を伺うのではなく、気持ちを汲んで欲しかった 大人ならではの視点を持って寄り添う
	37 子どもの味方である(2)	思うように成績が伸びない時でも味方であるということを伝える 常に味方でいてくれる
	38 子どもと向き合う(1)	前向きな姿勢でどんなことにも向き合う
	39 否定しない(2)	否定より肯定 生徒の個性を伸ばすように否定しないこと
	40 優しく接する(2)	優しく接してくれる
	41 頑張りを認める(4)	頑張りを認めてくれる 毎日の取り組みにたいして評価する言葉をかけてくれるなど
	15 対等に接する	42 対等な人間として接する(3)
16 生徒と良好な関係を築く	43 生徒と良好な関係を築く(4)	先生や大人と生徒や子供という線引きは必要だと思うが、逆に媚びない 先生や大人と生徒や子供という線引きは必要だと思うが、見下したりしない 生徒にあった距離感(近すぎず遠すぎず) 接しやすい教師(質問しやすい)

表4 学習意欲を高める中学校のあり方

メインカテゴリ	サブカテゴリ	回答例
1 学ぶことが楽しい	1 楽しく学べる(10)	楽しい場所 勉強を義務と感じさせない環境
	2 アクティブラーニングで学ぶ(6)	グループワークやアクティブラーニングなど活動的な授業内容が多い グループワークなど自分の意見を自由に述べられる環境
	3 授業がわかりやすい(3)	はっきりと学習内容がわかる場 授業がわかりやすい
	4 勉強の意義を示している(3)	なんのために勉強するのかをみんなが理解できるような場所 やる意義を見いだせる場所
	5 新しい学びや発見がある(2)	新しいことを学ぶきっかけとなる場所 勉強においても私生活においても新しい発見をすることができる場所
	6 興味のあることについて学べる(3)	一人一人がのびのび学びたいことを学べる場所 明確に好きな物や学びたいことがある
2 個に応じた指導が受けられる	7 一人一人に目標のある(2)	一人一人が目標を持つ環境 一人一人にあった目標を達成させ、成功体験が増やせる場所
	8 わからない子を取り残さない(3)	先生が勉強が苦手な子を気にかけて、分かるまで教えてくれる場所 分からない子供を置いていかない授業
3 学習環境が充実している	9 メリハリがしっかりしている(3)	オンオフがはっきりしているところ 学級内の雰囲気やメリハリがつけられるようにする
	10 進路に応じたクラス編成がされている(3)	学習状況によってクラス分けがされている 勉強の成績でクラスが決まる
	11 勉強を習慣にできる(1)	勉強を習慣にできる空間
	12 勉強しやすい設備・静謐な環境がある(12)	椅子がすわりやすい、 机が適正な高さにある
	13 自習スペースがある(5)	自習スペースに、科目担当の先生を配置し、質問できるようにする 自習スペースを設ける
	14 学習以外の環境も整っている(3)	学習環境だけに力を入れない場所 勉強だけでなく他の面でも充実している
4 自由で安全	15 間違えても大丈夫(6)	間違えてもいいと思える環境 間違えても周りに笑わずに、自分の意見が言える環境
	16 自由に発言できる(2)	自由で相互の信頼に基づく自律が求められる場所 自由に発言できる環境
	17 生徒同士の仲が良い(5)	クラス内の人間関係が良好(いじめに近いことが無い) みんなと仲がいい！
5 サポートを受けやすい	18 親身に話を聞いてくれる(3)	親身になって話を聞いてくれる場 生徒の意見を取り入れてくれる場所(生徒会よりも向き合ってくれる場)
	19 質問しやすい(2)	先生に気軽に質問できる場所(職員室にすることが多いとできない) 教師も生徒も、気軽に発言や質問ができる雰囲気作りをすること
6 切磋琢磨できる	20 お互い応援できる(1)	お互いに応援できる環境
	21 お互い教えあう(4)	生徒同士で教え合いの活動を行う 友達と問題を解くのにすぐに話し合える場所
	22 お互いに高め合う(15)	友達同士で教え合い、高め合える環境 周りが勉強している
	23 ライバルがいる(3)	競争のできる場所 競い合える友達がいること
	24 お互い尊重できる(2)	学生の間に、お互いを尊重する空気があること 生徒と生徒が互いに信頼できる環境
	25 好きな人と勉強できる(1)	好きな人と勉強すること
7 その他	26 大人が楽しそうに仕事をしている(1)	自身の興味・関心を追求する大人が楽しそうに仕事をしている場所
	27 評価が適切(1)	真面目にやっているとやってない人にはしっかりと評価で差が欲しい

5. 考察

5.1 教師との信頼関係と学習意欲

中学時代に良い先生・好きな先生に出会ったと回答した65名のうち、教科担当ではないと回答した9名を除いた56名の中で、47名(84%)がその先生の授業が好きであった。これは子どもが、良い先生・好きな先生の授業を好きになる可能性、あるいは、好きな授業の先生を良い先生・好きな先生と感じる可能性が高いことを示している。いずれにしても、子どもは授業を担当している先生

を良い先生・好きな先生と感じれば、先生との信頼関係を築きやすいだろう。中井(2015)は、学習意欲が高い生徒ほど、教師への信頼感が高いことを示している。本研究では、中井(2015)とは逆に、信頼関係が築きやすければ、生徒の学習意欲を高める可能性が示された。信頼関係を築き、学習意欲を高めるためには、教員が生徒に好かれ、生徒に好きと思われる魅力的な授業をすることが重要と言えるだろう。

5.2 学習意欲を高める言葉と下げる言葉

学習意欲を高める言葉では、「褒める言葉」(メ8)が最多の30件だった。上野ら(2000年)が小学生を対象にした研究では、成功場面で教師が児童の努力や意欲を十分に認め・励ますような言葉かけを意識的にすることは児童の意欲をさらに高めるために効果的であることが示されていた。本研究の結果は、中学生にも同様の効果が期待できることを示唆するものだと言えよう。

叱る言葉は「奮い立たせる」(サ7)や「時間を無駄にしていることに気づかせる」(サ8)などの「鼓舞する言葉」(メ4)としてカテゴリ化された。「褒める言葉」(メ8)、「鼓舞する言葉」(メ4)、「報酬を約束する言葉」(メ1)はいずれも外的動機づけを高める言葉である。一方「メリットを伝える言葉」(メ3)、「プレッシャーをかける言葉」(メ5)は同一化された動機づけを高める言葉と言えるだろう。これらの結果は、ベネッセ教育総合研究所(2014)が小・中学生を対象に行った調査結果の一部とも整合している。さらに表1を見ると勉強を開始する前、勉強をしている途中、勉強が終わった後と時間ごとに分けられる。メイン1～3が勉強前、メイン4～7が勉強中、メイン8、9が勉強後とすると回答数は、それぞれ27, 30, 32となり、学習意欲を高める言葉はどの場面でも重要であることがわかる。

一方、学習意欲を下げる言葉で最も多かった回答は、「勉強を強いる言葉」(メ1)であり、回答数は36件だった。その中の「テストのために勉強をやらせる」(サ6)や「結果にだけ目を向ける」(サ9)は、勉強の意義をテストのみとする言葉である。テストを目的化とする言葉かけでは学習意欲が下がり、テストを学習の過程と捉える言葉かけでは学習意欲が高まることを示唆していると考えられる。鈴木ら(2015)も、中学生のテスト観に介入すること(事前に何のためにテストを行うのか生徒に考えさせ、学習改善としての役割を

強く認識させる)が生徒の学習意欲を高めることを示していた。

また本研究では、学習意欲を高める言葉の反対の意味を持つ「期待していないことを伝える言葉」(メ3)、「できた喜びを挫く言葉」(サ16)などもあげられた。しかし、「期待を伝える言葉」(メ2)、「プレッシャーをかける言葉」のように、学習意欲を高める言葉としてあげられたものが同時に学習意欲を下げる言葉とされている場合もあった。同じ言葉でも学習意欲を高める場合と、下げる場合があるという事実は、発せられた言葉のみが学習意欲を左右するのではなく、その言葉を発した人との関係性やその言葉かけまでの過程が重要であることを示していると言えるだろう。

5.3 学習意欲を高める親や教師の態度・姿勢

学習意欲を高める親や教師の態度・姿勢は、大きく5つに分類された。1つは、見守ることであった(メイン1, 20件)。これらは、子どもの自主性を尊重し、あまり干渉しないもしくは全く干渉しないという姿勢でいることを望んでいることを示している。2つ目は、環境整備やサポートなどを提供することであった(メイン2～4, 11件)。この中には労いや報酬などの提供が行われており、基本的には子どもの自主性を尊重し、サポートするという立場を求めていることを示している。この2つはどちらも子どもの自主性を尊重しており、勉強に関わる直接的な関与は行っていないことが特徴的である(メイン1～5まで)。直接的に行動を促すよりも、背後から見守り支える態度が学習意欲を高める上で重要だと言えよう。

次に3つ目は、勉強への直接的な関わりを行うことであった(メイン5～10, 34件)。この中には、「授業を工夫する」(メ6)ことのほか、「目標を立てさせる」(サ15)や「勉強に付き合う」

(サ17)が含まれた。これらは、小学生を対象とした中川ら(2002)の研究で、学習過程をモニタリングされることで学習意欲が高まること示した結果と一致している。中学生においても、学習過程をモニタリングされることで学習意欲が高まること示された。また4つ目は、褒めるなどの前向きな声掛けであった(メイン11, 12, 18件)。これも第2節と同様に褒めるなどの前向きな言葉かけは学習意欲を高めるといえる。最後は、子どもへの接し方や関係性についてであった(メイン13~16, 29件)。これらについても第1節と同様に、信頼関係を構築することで子供の学習意欲が高まる可能性を示していると言えよう。

以上のことから、学習意欲を高める親や教師の態度・姿勢については、子どもの性格や考え方によって異なるものの、自主性を尊重する姿勢、勉強に関わる直接的な関わり、前向き声掛け、信頼関係を築く取り組みが重要であると言えるだろう。

5.4 学習意欲を高める中学校のあり方

学習意欲を高める中学校のあり方は、その他を除き3つに分類された。

1つは、学びに関すること(メイン1, 2)である。「学ぶことが楽しい」(メ1)は27件であり最大のメインカテゴリであった。そのことから、学校で学ぶことが楽しいと思える場所にすることが、子どもの内発的動機づけを高め、最も多くの生徒の学習意欲を高めることに繋がると考えられる。また、「わからない子を取り残さない」(サ8)ことも学習意欲を下げないために必要だといえる。

2つ目は、学習環境が充実している(メイン3)であった。これらは集中して勉強するために必要な設備や環境を整えることを期待するものであり、個人で勉強することを前提に回答していると考えられる。子どもの学習意欲を高めるには、

大人の側の働きかけとは別の要因も考慮することが必要だと言えよう。

最後は、生徒との関係性について(メイン4~6)であった。これらは、友人や親・教師との良好な関係が築かれている場所が学習意欲を高めるという考えである。大谷・岡田ら(2016)は、小学生を対象とした研究で、学級経営で思いやりを強調することは生徒の学習意欲が高まることを示したが、中学校でも思いやりのある学級経営は重要であることが示された。メイン4~6で最も多かった小カテゴリは「お互いに高め合う」(サ22)であり、回答例として「友達と教え合い、高め合える環境」の他に、「周りが勉強している」という回答が多くあった。ベネッセ教育総合研究所(2015)が小・中学生を対象に行った学習動機づけ調査では、周りが勉強している環境が、やらなければならないという取入れ的動機づけを高めることを示していた。本研究の結果得られた「お互いに高め合う」という要因も、取り入れ的動機づけを高める環境の必要性を示唆するものであろう。これらのことから、学ぶことが楽しいと思える環境、学習環境を充実している場、友人や親・教師との良好な関係が築かれている空間をつくる必要があると考えられる。

5.5 結論と今後の課題

本研究は、大学生を協力者としたアンケート調査を基に、中学生の学習意欲を高めるための親や教師の具体的な支援や働きかけのあり方を検討することを目的とした。

本研究の結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 中学生の学習意欲を高める言葉は、「褒める言葉」、「鼓舞する言葉」、学ぶことの「メリットを伝える言葉」などである。
- 2) 学習意欲を下げる言葉は「勉強を強いる言葉」、「結果にだけ目を向ける言葉」などである。
- 3) 学習意欲を高める親や教師の態度・姿勢は、

「自主性を尊重する姿勢」,「勉強に関わる直接的な関わり」,「前向き声掛け」,「信頼関係を築く取り組み」である。

4) 学習意欲を高める中学校のあり方は,「学ぶことが楽しいと思える環境」,「学習環境を充実している場」,「友人や親・教師との良好な関係が築かれている空間」である。

以上に示した,言葉や態度・姿勢や,中学校のあり方は,一人一人の子どもの個性に対する深い関心と理解に裏打ちされて初めて効果を発揮するものであろう。親や教師が,個々の子どもたちへの関心と理解に基づき,本研究で見出された言葉かけや態度・姿勢で接することによって,子どもの学習意欲は高まるであろう。

今回の研究では,中学生の学習意欲にのみアンケート調査を行ったが,学習は中学校で完結するものではなく,小学校,高校とのつながりも大切であるため,それらの年代の学習意欲を高める働きかけについて調査し比較検討を行うことも有意義であろう。また,今回は日本のみの研究を行ったが,諸外国との比較も重要であると考え。とくに教育水準が高いとされるフィンランドなど北欧諸国との比較は,日本において生徒の学習意欲を高めるための方略を考える上で有効であろう。

ベネッセ教育総合研究所 (2014)『小中学生の学びに関する実態調査』(https://berd.benesse.jp/up_images/research/Survey-on-learning_ALL.pdf) (2023年12月18日)

服部環・外山美樹 (2013)『スタンダード教育心理学』サイエンス社。

市原学・新井邦二郎 (2006)「数学学習場面における動機づけモデルの検討」『教育心理学研究』, 54, 199-210。

伊藤崇達 (2015)「小・中学生の学習への動機づけは,保護者のどのようなかわり方によって高まるか?“保護者の学習観をふまえて”」『ベネッセ教育総合研究所小中学生の学びに関する調査報告書, 研究レポート1』。

三和秀平・外山美樹 (2021)「教師の教科指導学習動機は小学生の自律的な学習動機づけと関連するのか」『教育心理学研究』, 69, 26-36。

文部科学省 (2019)『平成31年度(令和元年度)全国学

力・学習状況調査の結果』(<https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/19summary.pdf>) (2023年12月18日)

中川恵正・守屋孝子 (2002)「国語の単元学習に及ぼす教授法の効果“モニタリング自己評価訓練法の検討”」『教育心理学研究』, 50, 81-91。

中井大介 (2015)「教師との関係の形成・維持に対する動機づけと担任教師に対する信頼感の関連」『教育心理学研究』, 63, 359-371。

西松秀樹 (2023)「日本における動機づけに関する研究の動向」『滋賀文教短期大学紀要』, 25, 129-138。

大谷大・岡田涼・中谷素之・伊藤崇達 (2016)「学級における社会的目標構造と学習動機づけの関連」『教育心理学研究』, 64, 477-491。

小栗裕子 (2023)「教材研究の手法: 中学校・高等学校の検定教科書を分析する」『研究論集』, 117, 357-364。

坂本昌弥・西山久子 (2023)「中学生の学習意欲を促進させるガイダンス授業と個別支援の試行的実践」『福岡教育大学大学院教職実践専攻年報』, 13, 47-54。

鈴木雅之 (2011)「ルーブリックの提示による評価基準・評価目的の教示が学習者に及ぼす影響」『教育心理学研究』, 59, 131-143。

鈴木雅之・西村多久磨 (2015)「中学生の学習動機づけの変化とテスト観の関係」『教育心理学研究』, 63, 372-385。

高崎文子 (2003)「幼児を対象とした目標志向性の測度の開発」『教育心理学研究』, 51, 401-412。

高橋一哉・桐生徹 (2014)「理科授業における子どもの予習と学習意欲の関係に関する研究」『本科学教育学会研究会研究報告』, 29 (4), 7-12。

上野三千代・安達紀子・河野久美子・芳賀明子 (2000)「教師の言葉かけと児童の感じ方の関連Ⅱ“児童の学校適応感とうれしいと感じる教師の言葉かけの相関関係”」『日本教育心理学会第42回総会発表論文集』, 61。